

	筑波大学 特定分野
学部等の教育研究 組織の名称	<p>体育専門学群（第1年次：240名）</p> <p>芸術専門学群（第1年次：100名）</p> <p>人間総合科学研究科（M：423名 D：184名）</p>
沿 革	<p>明治11（1878）年 体操伝習所 開設</p> <p>明治32（1899）年 高等師範学校手工専攻科 開設</p> <p>昭和24（1949）年 東京教育大学体育学部・教育学部芸術学科設置</p> <p>昭和48（1973）年 筑波大学 体育専門学群 設置</p> <p>昭和50（1975）年 芸術専門学群 設置</p> <p>昭和51（1976）年 体育研究科、体育科学研究科、芸術学研究科を設置</p> <p>昭和52（1977）年 芸術研究科 設置</p> <p>平成13（2001）年 体育科学研究科および芸術学研究科を廃止し、人間総合科学研究科を設置</p> <p>平成19（2007）年 芸術研究科を廃止し、人間総合科学研究科を設置</p> <p>平成20（2008）年 体育研究科を廃止し、人間総合科学研究科を設置</p>
設置目的等	<p>昭和24（1949）年に、東京教育大学体育学部および教育学部芸術学科が設置された。</p> <p>昭和48（1973）年に、幅広い教養を基礎に、体育及び保健に関する専門教育を行うことを目的として、体育専門学群が設置された。</p> <p>昭和50（1975）年に、幅広い教養を基礎に、芸術に関する専門教育を行うことを目的として、芸術専門学群が設置された。</p> <p>昭和51（1976）年に、スポーツ文化と社会環境、体育・スポーツ・健康に関する教育、身体と運動のメカニズムについて、専門領域の洞察力と総合的な視野をもちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人と高度な専門性を備えた人材を育成することを目的として、体育研究科（修士課程）および体育科学研究科（博士課程）が、芸術分野において、豊かな人間性と創造的な活力にあふれ、グローバルに活躍する自立した研究者を育成することを目的として芸術学研究科（博士課程）が、それぞれ設置された。</p> <p>昭和52（1977）年に、芸術分野における研究能力、専門性を要する職業等に必要な能力を身につけた高度専門職業人を育成することを目的として、芸術研究科（修士課程）が設置された</p> <p>平成13（2001）年に、心身に関する基礎から応用までの豊富かつ高度な</p>

教育研究を通して、それぞれの固有の学問領域においてさらに高度な研究を計画実行できる研究者、さらに複合的な視点から人間を捉え柔軟かつ適切な援助を設計し実行できる高度職業人の養成を目的として、人間総合科学研究科（博士課程）が設置された。このうち芸術分野は平成 19（2007）年に芸術研究科、体育分野は平成 20（2008）年に体育研究科をそれぞれ統合し、区分制に移行した。

強みや特色、
社会的な役割

【総論】

筑波大学における体育・芸術分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における普遍的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。

引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

【教育】

(学部)

- 体育分野では、優れた運動技能と幅広い運動経験を基盤に、体育・スポーツ及び健康に関する最新の科学的知見をいかしながら、諸々の問題解決を図れる知・徳・体を具備した体育・スポーツ界のリーダーを養成する。

芸術分野では、総合大学の中に設置された芸術の専門的な教育組織として、幅広い視野と高い専門性を兼ね備えた美術・デザインの専門家を養成する。

- このため、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ、体育分野では、科目の精選とともに実技に指導法を組み入れるなど指導力向上を考慮した教育課程を編成し、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を構築している。

芸術分野では、学際教育と専門教育の積み上げによる教育課程を編成し、少人数クラス制による個性を伸ばす教育を実施している。また、国際インターンシップなどの機会を活用し、国際的コミュニケーション能力と世界的視野に立った創造力を育成する体制を構築している。

- 今後は、体育分野では、国際化を促進しつつ、スポーツ科学の知と実践力を具備した体育・スポーツ界のリーダーをさらに輩出するために、英語による授業科目の増加や推薦入試を含めた入学者選抜方法の改革等を推進する。

芸術分野では、分野横断的基礎科目の充実に加えて、教育成果として作品等の公開展示、地域貢献事業、国際交流等を促進するとともに芸術と多領域の融合による教育プログラムを拡充する。

このため、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等

を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 体育・スポーツ・健康並びに芸術に関して、例えば、高度な競技力・指導力、研究等の能力や幅広い学識、高度な専門性をもった高度専門職業人・研究者を養成する。
- このため、体育分野では、専門的知識・能力の養成を効果的に行うために、多様な職域・研究分野に対応したコース・プログラムを設定して教育を実施するとともに、夏季休暇を活用した短期国際研究プログラム「Tsukuba Summer Institute」や学際融合的な最先端の研究プロジェクトへの積極的な参加を促し、国際的なコミュニケーション能力及び学際融合研究を構築する能力の養成を強化している。

芸術分野では、美術・デザインの理論研究と作品制作の充実をはかるとともに、世界遺産の保全を通じた人と環境の問題等に関する教育の充実や感性科学とそれに関連する認知科学やロボット工学等を分野横断的に学ぶ教育課程などによって、社会の多様なニーズに対応できる学際的コミュニケーション力と国際的発信力を醸成している。

- 今後は、体育分野では、既に協定を結んでいる鹿屋体育大学、日本スポーツ振興センター、日本アンチ・ドーピング機構、海外大学との連携を実質化し、新たな教育システムを構築するとともに教育・研究・スポーツ・ビジネス各界のグローバル人材の養成を強化する。

芸術分野では、時代の動向や社会構造の変化に的確にこたえ、海外交流大学との連携をさらに高いレベルに導く新たな教育システムを構築するとともに、課程制大学院の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

【研究】

- 体育分野における高い研究実績をいかし、多様な領域の教育現場に寄与する実践的研究、学際融合的な最先端の健康・スポーツ科学研究、そして国レベルの競技力向上に寄与するスポーツ科学研究を推進する。

芸術分野における高い研究実績をいかし、国立大学法人の総合大学内に設置された芸術研究組織という特色のもとで、学内外の他組織、国内外の関連機関との連携によって、多彩な分野横断型の研究を推進する。

- これらの取組を通じて、体育分野では、国レベルの競技力向上に関する研究によりオリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍に貢献している。

芸術分野では、芸術に関する先端的創造的研究により国際学会活動や海外の世界遺産の復旧・保全等に貢献している。

- 今後は、体育分野では、国内外の関連機関・組織との連携を強化することで、教育現場に寄与する実践的研究及び競技力向上に関するスポーツ科学研究の充実・発展を図るとともに、新たな視点から最先端の健康・スポーツ科学研究の国際拠点形成を図る。

芸術分野では、芸術と科学の融合研究を推進するとともに、社会の多様なニーズに対応できる汎用性の高い芸術に関する能力育成のためのプログラム開発や国内外美術系大学との交流活性化によるグローバル人材育成とネットワーク構築などによって、我が国の社会・文化の発展をけん引する。

【その他】

- 中央アジアや東南アジアにおける体育教育とスポーツの現状を知るためのスタディツアーを学生参加のもと実施し、国際貢献のための知的体系と行動力を養う事業を展開している。
- 国際交流協定等に基づく交換留学や研究・作品交流、国際インターシップなどの機会を活用し、国際的コミュニケーション能力と世界的視野に立った創造力を育成する体制を構築している。
- 平成 28 年度に、スポーツ・健康に関して国際的な貢献ができる人材を養成するため「スポーツ国際開発（仮称）」の共同専攻（修士課程）を、また、大学体育及び大学スポーツの充実と実践的研究の推進を図れる人材を養成するため「高度大学体育指導者養成（仮称）」の共同専攻（3 年制博士課程）を、鹿屋体育大学等と連携し設置に向けた準備に取り組む。
- 関連する国内外の機関・組織と連携して、体育分野・芸術分野の教育研究成果を活用する社会貢献事業を展開している。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18 歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。